

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

都市の定義が変わる(その1、大箱から分散型へ) 隈 研吾(建築家)

1. 「新型コロナ」によって、まず都市の定義が変わる。われわれが今、都市と思っているものは20世紀に米国が定義した都市だ。オフィスや工場といった「大きな箱」をつくり、そこに人を集めて効率的に働かせている。郊外から都市へと人を送り迎えするのも、電車や自動車という「鉄の箱」だ。しかし、そのような都市は時代遅れでその先を考えなければならない。
2. 大箱＝効率的という大前提が崩れた。ICTが進化し、今はどこにいても仕事ができる。大箱に詰め込まれて働くことは、むしろストレスになる。これからは分散型のライフスタイルが働き方の基本になってくる。分散型という、オフィスを都心から郊外に移し、その周辺に住むと思われがちだ。しかし、それも大箱の中に人を詰め込む形に変わらない。人がもっと自由に仕事をするのがこれからのスタイルだ。
3. 箱でないところで働くとは、「多様性」がキーワードだ。多様な場所、働く人を上手にネットワークして効率を上げることが重要になる。郊外の自宅で働く人、都市のオフィスで働く人、さまざまな場所で働く人が、ネットワークでつながり、1つの事業や1つのプロジェクトを進めていく形が、これからの働き方になる。

(参考:「週刊東洋経済」2020年7月4日号)

経営者のための理念・哲学

国家危機対応の要諦

渡辺 利夫(拓殖大学学事顧問)

1. 児玉源太郎と後藤新平の検疫事業から見えてくる明治の教訓は、主に二つあると私は思います。一つはコレラという当時はまだ有効な治療法がなかった感染症に対して、限られた資源を能う限り迅速果断に凝集し、事態に対処しようとする危機管理意識を指導者が共有していたことです。あるいは、共通の危機管理意識を創り出すリーダーシップ、この人ならついていきたいと思わせる人間力が指導者に備わっていた。
2. 二つには、事態の対処に当たる指導者に有力な人材を抜擢・配置し、彼らに現場指揮の全権を任せて事に臨むということです。特に専門知識と行政能力を兼ね備えた人物をトップに据える。そこには、自らの判断が正しいかどうかは、後の歴史が証明する、という気概と豪気もあったのだろうと思います。

(参考:「致知」2020年9月号)

ワンポイント経営アドバイス

危機で見直すべき三つのリスク

1. 米ボストンコンサルティング・グループが、米国の大手上場企業の業績を過去4回の経済危機前後でどう変化したか調べたところ、市場全体が落ち込んだにもかかわらず、14%の企業が増収・増益を果たしたという。これらの企業の成功の鍵は以下の三つに集約された。(1) 素早いアクション、(2) 長期的視野、(3) コストカットと成長の両方を目指すことである。
2. コロナ危機において、日本企業は(1)の素早いアクションに関しては合格だろう。テレワークなどへの転換は早かった。(3)のコストカットも、デジタル化の推進で効率を上げる流れができています。問題は、(2)の「長期的視野」と、(3)「成長」を目指しているかどうかだ。未来を見据えて新しい事業機会を求め、困難をイノベーションで乗り切り、さらに成長の道筋を付ける企業が伸びるのだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年6月27日号)

古典に学ぶ

苦心と変化の連続

(解説) しかるに最初の決心がそれほど雄々しいものであったにもかかわらず、さて実地に進行して見るとなかなか思惑どおりには行かないもので、以来40余年間、しばしば初一念を動されようとしては危く踏み止り、ようやくにして今日あるを得た訳である。今から回顧すれば最初の決心当時に想像したよりも、この間の苦心と変化とは遙かに多かったと思われる。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)